

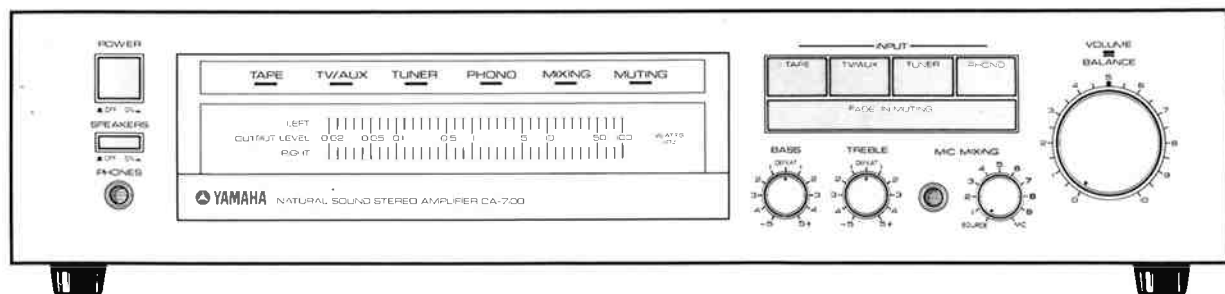


YAMAHA

NATURAL SOUND
STEREO AMPLIFIER

CA-7100

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプ CA-7100 をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。

CA-7100 の優れた性能を十分に発揮させるとともに、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次	ページ
各部の名称	2
接続図	3
ご使用の前に次のことにご注意ください	4
接続上のご注意	5
各部の名称と機能	6
演奏のしかた／録音のしかた	
■演奏のまえに	7
■レコードの演奏	7
■AM/FM放送の受信	7
■テープデッキの再生	7
■ミキシングのしかた	8
■レコードの録音	8
■エアチェック（チューナーの録音）	8
■マイクミキシングの録音	8
■テープのダビング	9
■テープとのマイクミキシング録音	9
ブロックダイヤグラム	10
参考仕様	10
故障と思われるときには	11
サービスのご依頼について	12

■特長

●余裕ある出力と低歪率

定格出力65W+65W、歪率0.02%という余裕ある出力と低歪率で、ダイナミックレンジの広い音楽も雄大にかつ忠実に再生します。

●フェードインミュート機構

ボリュームを回さずに、ボリュームで音量をコントロールしたときと同様に、次第に音量をさげ（-20dB）たりあげ（もとの音量）たりできるフェードインミュート機構を採用し、一時的に音量をさげる場合、快適に行なうことができます。

●マイクミキシング機能

レコードの伴奏で歌ったり、楽器を演奏したり、いろいろな楽しみ方ができる専用の高感度アンプによるマイクミキシング機能を内蔵しています。

●フェザータッチ式 INPUT スイッチ

INPUTスイッチに操作性の良いフェザータッチスイッチを採用し、プログラムソースの選択切り換えはワンタッチで行なえます。

●精密トーンコントロール機能

ヤマハ方式精密トーンコントロール回路により、部屋の特性や好みの音に合わせ、高域・低域とも微妙な調整をすることができます。

●オートファンクションシステム

コンポーネントシステムトータルとして操作性を考えて生まれたオートファンクションシステムは、今までのわずらわしいツマミ操作から解放され、音楽をより身近なものとしてくれます。（CT-5100、CT-7100、YP-7100、YP-9100、K-7100 使用時）

●洗練されたデザイン

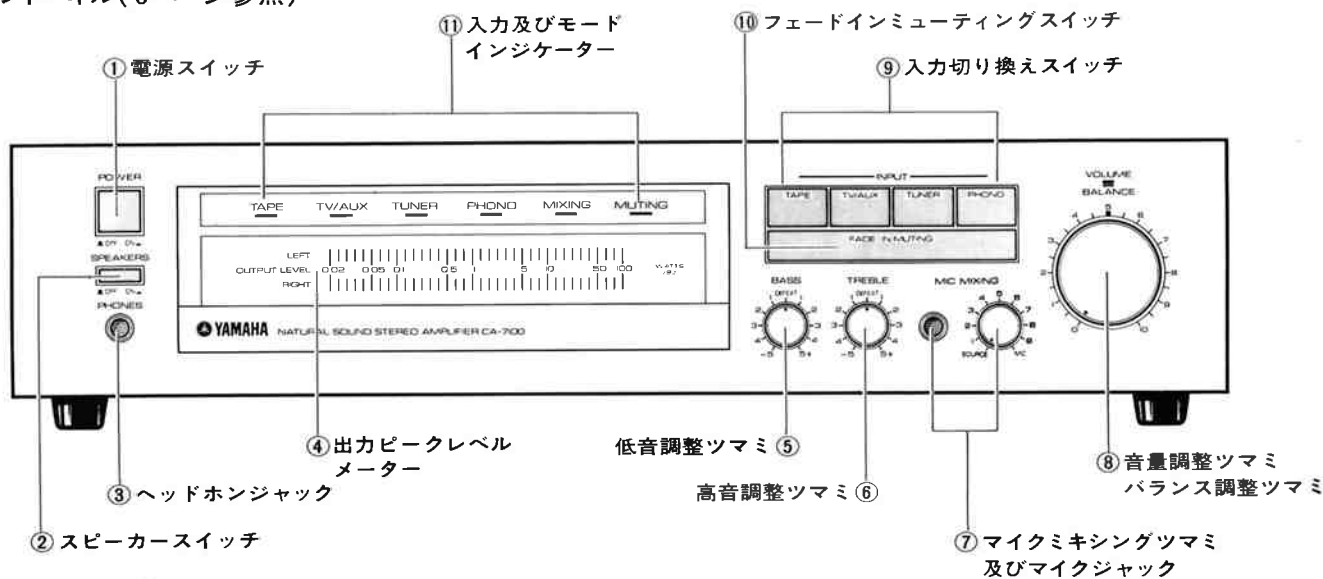
スペースファクターやスタイリングを考慮し、操作性とともにトータルインテリア性も重視した洗練されたデザインのコンポーネントに仕上がっています。

●赤白に色分けされた入出力端子

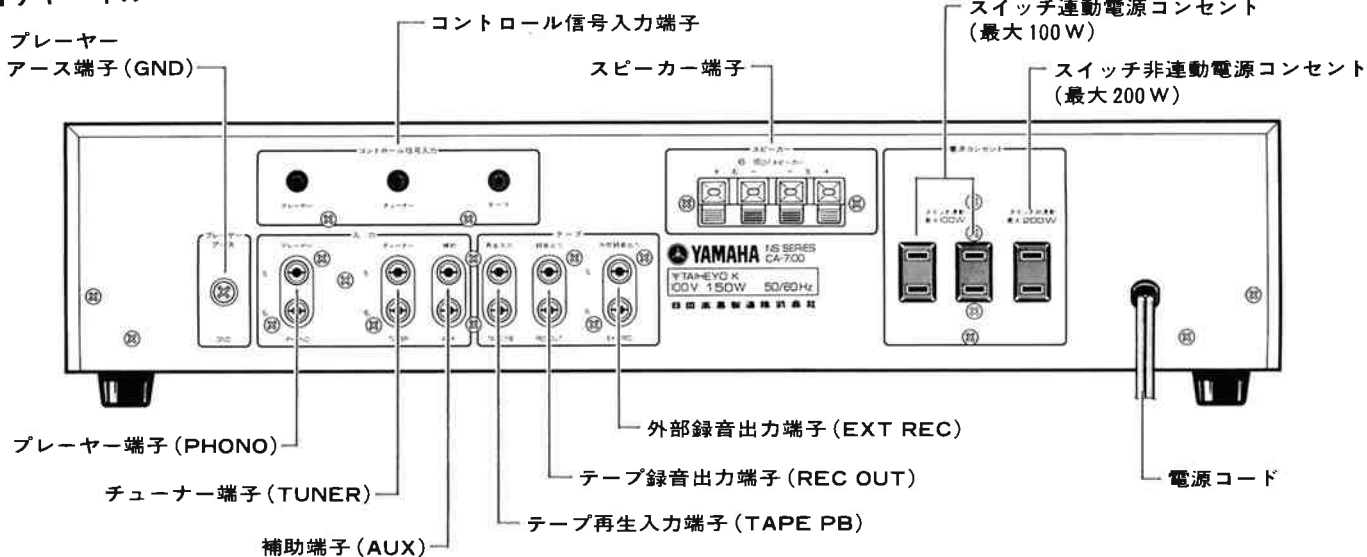
入出力端子を赤白の色で区別してあり、ピンジャックと同じ色に接続すればL、Rをまちがえることなく接続できます。

各部の名称

■フロントパネル(6ページ参照)



■リヤパネル



■AUTO FUNCTION SELECTOR (自動入力切り換え機構) について

各セットの端子間及びコントロール信号出力端子を右の接続図のように接続してください。

レコードプレーヤー、チューナー、テープデッキで次の操作をしますと、AUTO FUNCTION SELECTORが働き、アンプのINPUTスイッチが自動的に切り換わります。

●プレーヤー (YP-9100) ……………

PLAY 操作をしたとき。

●チューナー (CT-7100) ……………

- 1) POWER スイッチを ON にしたとき。
- 2) FUNCTION, TUNING, PRESET STATION ボタンを切り換えたとき。

●テープデッキ (K-7100) ……………

プレイ (>) 操作をしたとき。

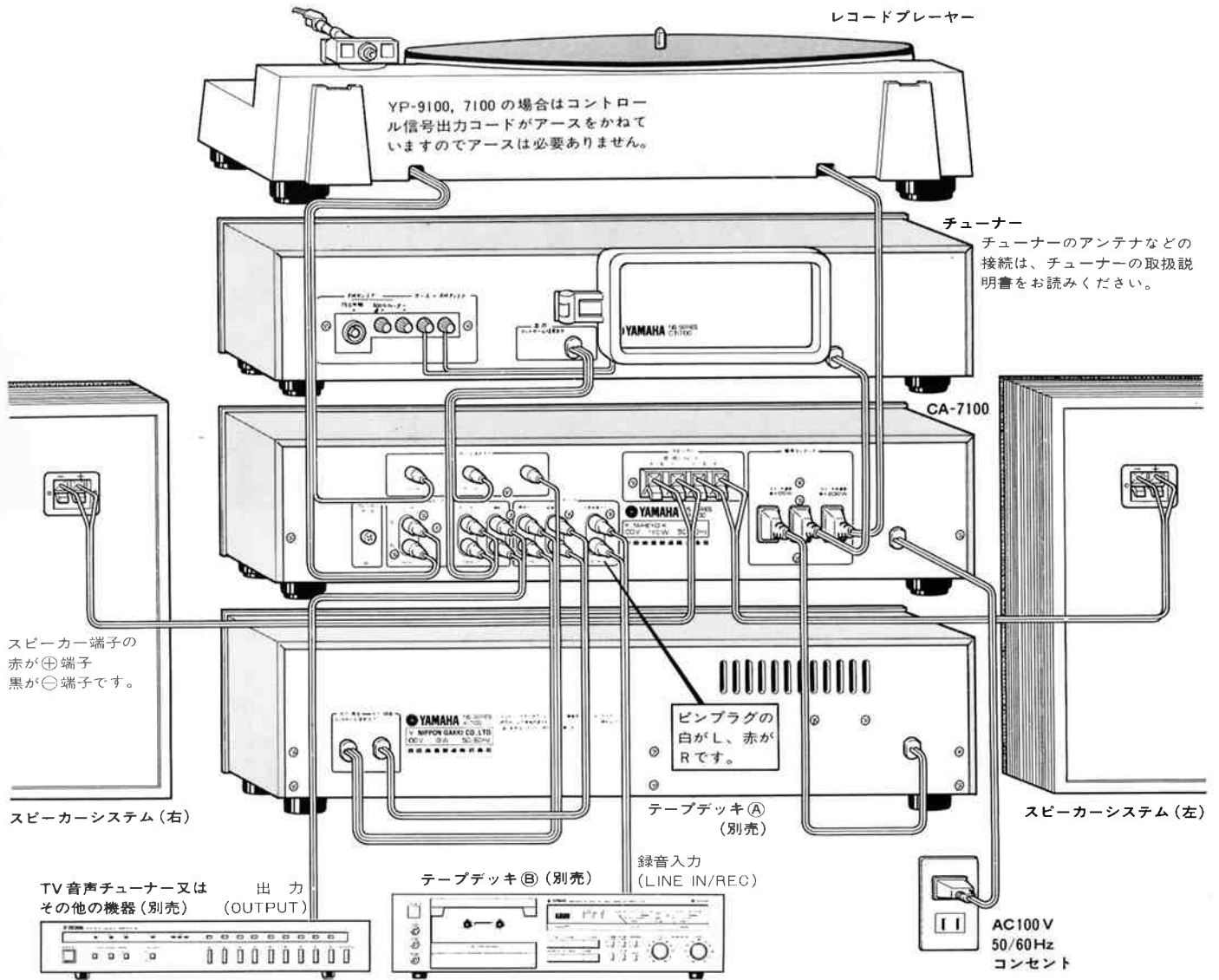
従って、プレーヤー、チューナーあるいはテープデッキのいずれかを聴いているとき、別のプログラムソースに切り換えたり、初めのソースに戻したい場合は、マニュアルで切り換えるか、もう一度上記の操作をしないと切り換わりません。

◆本機には REC OUT SELECTOR (録音出力切り換え) 機能がないため録音ソースは INPUT スイッチで選びますが、録音中、録音ソース以外のセットで上記の操作をしますと INPUT スイッチが切り換わり、録音ソースが変わってしまいますのでご注意ください。

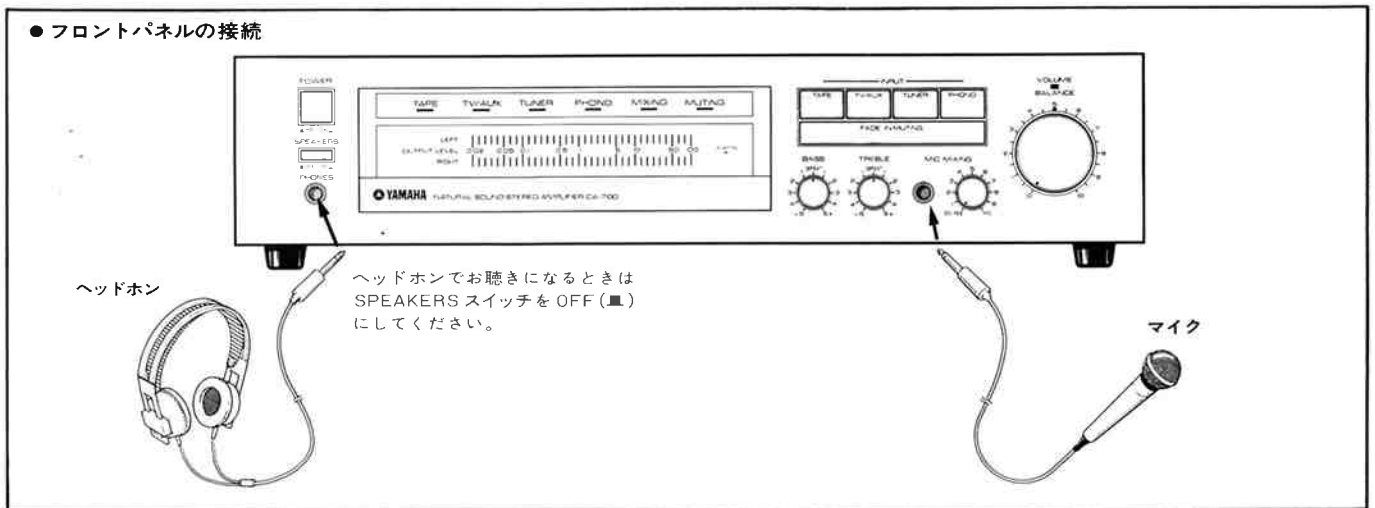
接続図

■基本接続図

※各セットの電源を切り、右チャンネル(R), 左チャンネル(L)を確認してしっかりと接続してください。



●フロントパネルの接続



ご使用の前に次のことにご注意ください

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビを生じたり故障の原因となります。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり性能をそこなうことがあります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。

セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

取り扱いはいけない

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。

電源電圧は AC 100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

◆本機は、国内電源AC100V±10V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できません。

落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

予備電源コンセント

本機リヤパネルの電源コンセントの容量は、スイッチ連動側2個は合計で100Wまで、スイッチ非連動側1個は200Wまでです。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の機器は絶対に接続しないでください。

水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、発煙などの原因になり性能をそこなうこととなりますのでご注意ください。

ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れると、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードをはずしてから動かしてください。

入出力コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機の電源スイッチを切ってから行なってください。

セット上面の通風孔をふさがない

放熱を防げないため、セット上面の通風孔の上にビニールの敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。

保証書の手続きを



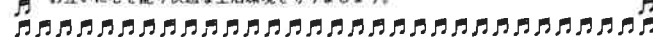
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず11ページの「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

保管してください

この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書と共に大切に保管してください。


 これは電子機械工業会「音のエクサット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するののも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。


接続上のご注意 (3ページをご参照ください)

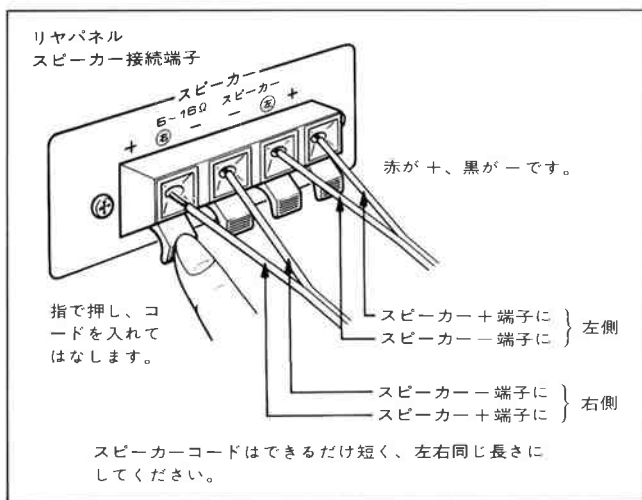
■接続の前に

1. 接続コード間での悪影響防止のため、各コードはできるだけ交わらないように離してください。
2. 本機のセッティング場所は、放熱を妨げない場所を選んでください。
3. 3ページの接続図を参照し正しく接続してください。

■スピーカーシステムの接続

1. 向かって右側のスピーカーシステムのコードをスピーカー端子の④端子に、左側のスピーカーシステムのコードを③端子に、それぞれ極性 (+, -) を確認し接続してください。まちがえて接続すると低音のそなわれた不自然な再生音になってしまいます。
2. 接続は、図のように端子下のレバーを押し、スピーカーコードの芯線部分をさし込み、レバーを離すとコードがロックされます。赤い端子が+で、黒が-です。確実に接続してください。

◆スピーカーはインピーダンスが6～16Ωの範囲のものをご使用ください。



■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードのL, Rを確認してプレーヤー (PHONO) 端子に接続し、アース線がある場合はアース線をプレーヤーアース (GND) 端子に接続します。なお、アース線を接続してハムなどの雑音が出たようでしたら、アース線は接続しないでください。

■チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のチューナー (TUNER) 端子の⑤, ⑥を確認して接続コードで接続してください。

■補助 (AUX) 端子への接続

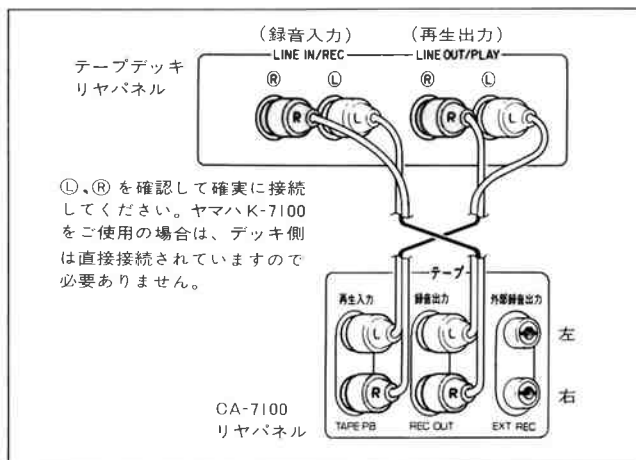
補助入力端子は、チューナーやテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

■テープデッキの接続

⑦, ⑧を確認して次の端子間を接続してください。

テープデッキ 本機

録音入力 (LINE IN) 端子 ↔ 録音出力 (REC OUT) 端子
再生出力 (LINE OUT) 端子 ↔ 再生入力 (TAPE PB) 端子



■外部録音出力 (EXT REC) 端子への接続

テープデッキが2台ある場合、テープデッキの録音入力 (LINE IN) 端子とこの端子を⑨, ⑩を確認して接続してください。テープのダビングや、テープとのマイクミキシング録音などができます。

■リヤパネル電源コンセントへの接続

1. 消費電力が100W以下の機器は、本機リヤパネルの電源コンセントの「スイッチ連動」側に接続し、POWERスイッチをONにしておくと、本機のPOWERスイッチと連動させて電源をON, OFFすることができます。
注。「スイッチ連動」のコンセントは、2つの合計で100Wまでです。接続する機器の消費電力を確認し、必ず100W以下でご使用ください。
2. 「スイッチ非連動」側のコンセントは消費電力200W以下の機器が接続でき、本機のPOWERスイッチのON, OFFとは関係ありません。

■コントロール信号入力端子への接続

プレーヤー、チューナーまたテープデッキにコントロール信号出力がある場合、そのプラグをそれぞれのジャックに接続しますと、各々の機器のプレイスイッチ又は電源スイッチと連動して、本機のINPUTスイッチを切り換えることができます。

例えば、前にチューナーを聴いていて今度テープを聴く場合、テープデッキのプレイボタンを押すと、本機のINPUTスイッチは「TUNER」から「TAPE」に自動的に切り換わります。

各部の名称と機能 (2ページをご参照ください)

①POWER (電源スイッチ)

スイッチを押す(■)と電源が入り、インジケータ部、メーター部に照明ランプが点灯します。もう一度押す(■)と電源は切れます。

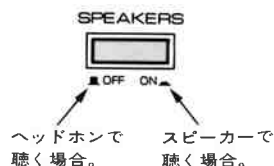
◆電源を入れるときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEツマミを最小の位置(0)にしておくようにしてください。

◆電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音は出ません。

②SPEAKERS (スピーカースイッチ)

リヤパネルのスピーカー端子に接続されたスピーカーシステムのON(■), OFF(■)を行ないます。

スピーカーでお聴きになる場合はONにし、ヘッドホンでお聴きになる場合はOFFにしてください。OFFにするとスピーカーからの音は出なくなります。



③PHONES (ヘッドホンジャック)

ヘッドホンでお聴きになるときは、SPEAKERSスイッチをOFF(■)にして、ヘッドホンのプラグをこのジャックに差し込んでください。

④OUTPUT LEVEL (出力レベルメーター)

スピーカー端子に8Ωのスピーカーシステムを接続した場合の出力をWATT(ワット)で表示します。8Ω以外のスピーカーを使用するときは、次の計算式で換算することができます。

$$\frac{8}{\text{使用スピーカーのインピーダンス}} \times \text{メーターの表示} = \text{使用スピーカーの出力}$$

⑤BASS (低音調整ツマミ)

低音域の特性を調整します。“DEFEAT”位置ではフラットな特性になり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。



⑥TREBLE (高音調整ツマミ)

高音域の特性を調整します。“DEFEAT”位置ではフラットな特性になり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

⑦MIC MIXING (マイクミキシングツマミ及びマイクジャック)

マイクジャックにマイクのプラグを差し込み、INPUTスイッチで選んだプログラムソースとミキシングします。

ツマミを“SOURCE”位置から右に回すと“カチッ”と音がして⑪のMIXINGインジケータが点灯します。右に回すほどマイクの音が大きくなります。ツマミを左右に回してミキシング量を調整します。



マイクを使わないときは“SOURCE”位置(“カチッ”と音がしてインジケータも消えます。)にしておいてください。

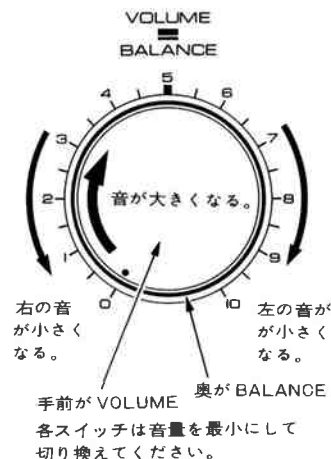
⑧VOLUME/BALANCE

(音量調整ツマミ/バランス調整ツマミ)

手前のツマミがVOLUMEツマミで、全体の音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。

奥のツマミがBALANCEツマミで、左右のスピーカーの音量バランスを調整します。リスニングポジションで左右の音が中央にバランスするように調整してください。

ツマミを右に回すと左の音が小さくなり、左に回すと右の音が小さくなります。



◆POWERスイッチをON, OFFしたり、INPUTスイッチを切り換えるときは、不用意に大きな音やスイッチの切り換え音が出ないように必ず音量を最小にして行なってください。またレコードに針先を降ろすときも音量を最小にして行なうようにしてください。

⑨INPUT (入力切り換えスイッチ)

リヤパネルの入力及びテープ端子に接続されているプログラムソースを選択します。お聴きになりたいソースのスイッチを押しますと、入力が切り換わり⑪のインジケータが点灯し選ばれたソースを示します。

次のページにつづく

演奏のしかた・録音のしかた

⑩FADE IN MUTING

(フェードインミュティングスイッチ)

スイッチを押すと⑪のMUTINGインジケータが点灯し、VOLUMEつまみで音量をさげたとときと同様に次第に音量がさがり、もとの音量から20dB(1/10)さげることができます。もう一度押すと、同様に次第に音量があがり、もとの音量に戻ります。

ステレオをお聴きのときに電話がかかってきた場合など、一時的に音量をさげる場合に便利です。また、VOLUME目盛3以下くらいの小音量で聴く場合には、FADE IN MUTINGスイッチで音量をさげておくと、VOLUMEつまみで音量調整をする際細かい調整ができます。

⑪入力及びモードインジケータ

INPUTスイッチで選ばれたプログラムソースのインジケータが点灯し、プログラムソースが何であるかを示します。また、MIC MIXINGつまみを“SOURCE”から右に回すと、MIXINGインジケータが点灯しミキシングモードであることを示します。

MUTINGインジケータが点灯しているときは、FADE IN MUTINGスイッチがON状態で、ミュート動作中であることを示します。

■演奏のまえに

1. 接続を確認してください。

- 接続図を参照して接続に間違いがないか。
- スピーカーシステムの左(L), 右(R), 極性(+, -)に間違いはないか。
- 接続コードの左(L), 右(R)は逆になっていないか。
- 各コードはしっかりと接続されているか。

以上の点をもう一度確かめてください。

2. VOLUMEつまみを最小(0)にしておきます。

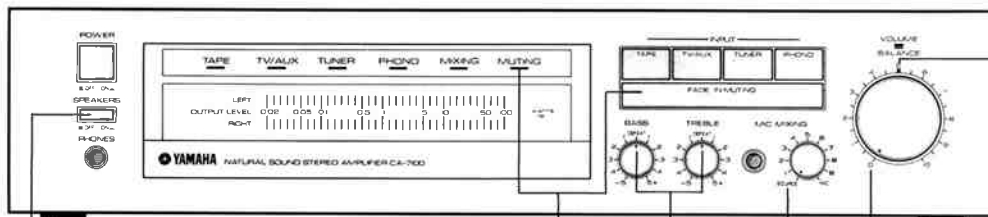
3. BALANCEつまみは中央(5)にします。

4. MIC MIXINGつまみは“SOURCE”にします。

5. BASS, TREBLEつまみは中央(DEFEAT)にしておきます。

6. スピーカーで聴く場合はSPEAKERSスイッチをONにし、ヘッドホンで聴く場合はOFFにします。

7. POWERスイッチをONにします。



スピーカーなら ON
ヘッドホンなら OFF

OFF 状態 DEFEAT SOURCE VOLUME は最小(0)にしておく。

BALANCE は
中央(5)にする。

演奏の準備ができましたら、VOLUME, BALANCE, BASS, TREBLEの各つまみで適当な音量と音質にしてください。なお、コントロール信号出力のあるレコードプレーヤー(YP-9100, 7100)、チューナー(CT-5100, 7100)、テープデッキ(K-7100)をご使用の場合は、それぞれの演奏でのINPUTスイッチの操作は必要ありません。(2ページ参照)

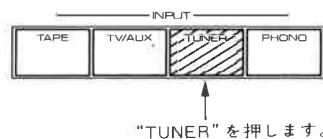
■レコードの演奏

1. INPUTスイッチの“PHONO”ボタンを押します。
2. レコードプレーヤーを操作し、レコードを演奏します。



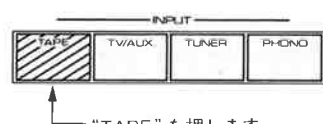
■AM/FM放送の受信

1. INPUTスイッチの“TUNER”ボタンを押します。
2. チューナーを操作し、放送を受信します。



■テープデッキの再生

1. INPUTスイッチの“TAPE”ボタンを押します。
2. テープデッキを再生状態にします。



■ミキシングのしかた

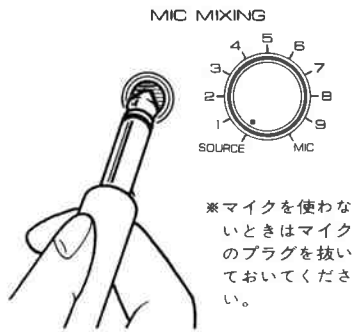
1. INPUTスイッチのミキシングしたいプログラムソースボタンを押します。



ミキシングしたいボタンを押す。

2. マイクのプラグをマイクジャックに差し込みます。

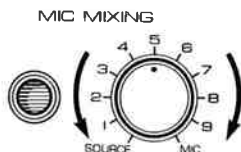
3. MIXINGツマミを中央(5)にセットし、VOLUMEツマミで適当な音量にします。



※マイクを使わないときはマイクのプラグを抜いておいてください。

4. MIXINGツマミでプログラムソースとのミキシング量を調整します。マイクによって感度が違いますので、音を聴きながらミキシングバランスを調整してください。

MIXINGツマミを左に回すとマイクの音は小さくなり、右に回すと大きくなります。



マイクの音が小さくなる。 マイクの音が大きくなる。

◆マイクだけをご使用になる

ときはMIXINGツマミを右一杯に回してください。ただし、感度の高いマイクではハウリング(“ピー”という音が出ます)を起こす場合があります。このような場合は、VOLUMEツマミで音量をさげてください。

また、MIXINGツマミを右一杯に回して“MIC”になっても、INPUTスイッチで選んだプログラムソースの信号が大きいとわずかにマイク側にもれることがあります。マイクだけをテープデッキに録音する際は、INPUTスイッチの使用していないボタン



あきボタンを押しておく。

◆6ページ⑦MIC MIXING

の項の注意書きを参照してください。

■レコードの録音

1. INPUTスイッチの“PHONO”ボタンを押します。



“PHONO”を押す。

2. テープデッキを録音スタンバイ状態にします。

3. レコードプレーヤーを操作し、レコードを演奏します。

4. テープデッキの録音をスタートします。
◆録音される信号はアンプのVOLUMEとは関係ありません。録音レベルはテープデッキのREC LEVELボリュームで設定してください。

5. 録音中の音を聴きたい場合は、本機のVOLUMEで音量をあげ、BALANCE, BASS, TREBLEで希望の音質に調整します。

◆録音中、VOLUME, BALANCE, TREBLE, BASSの各ツマミを回しても録音には影響ありません。

■エアチェック(チューナーの録音)

1. INPUTスイッチの“TUNER”

ボタンを押します。



“TUNER”を押す。

2. テープデッキを録音スタンバイ状態にします。

3. チューナーを操作し、放送を受信します。

4. テープデッキの録音をスタートします。

■マイクミキシングの録音(テープデッキが1台の場合)

1. INPUTスイッチのミキシングしたいプログラムソースボタンを押します。

(“TAPE”ボタンでは録音できません。)



↑テープデッキが1台の場合“TAPE”ではミキシング録音はできません。

2. テープデッキの録音ボタン(REC)のみを押します。(PLAYボタンは押さない)

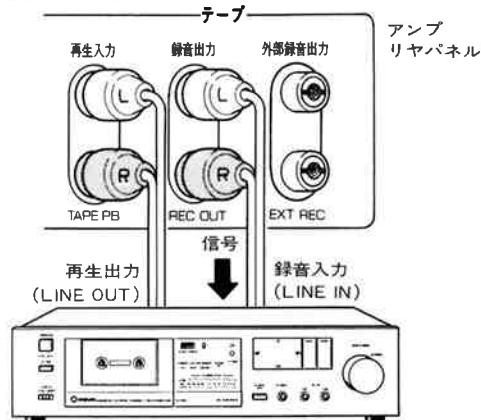
3. 「ミキシングのしかた」に従ってミキシングバランスを調整します。

◆録音される信号はアンプのVOLUMEとは関係ありません。MIXINGツマミでミキシングバランスを調整し、録音レベルはテープデッキのREC LEVELボリュームで設定してください。

4. PLAYボタンを押し、録音をスタートし同時にマイクミキシングを始めます。

◆マイクミキシング中にアンプのVOLUMEをあげすぎたり、マイクをスピーカーに向けますとハウリング音まで録音されてしまいますので注意してください。

(基本接続と同じ)

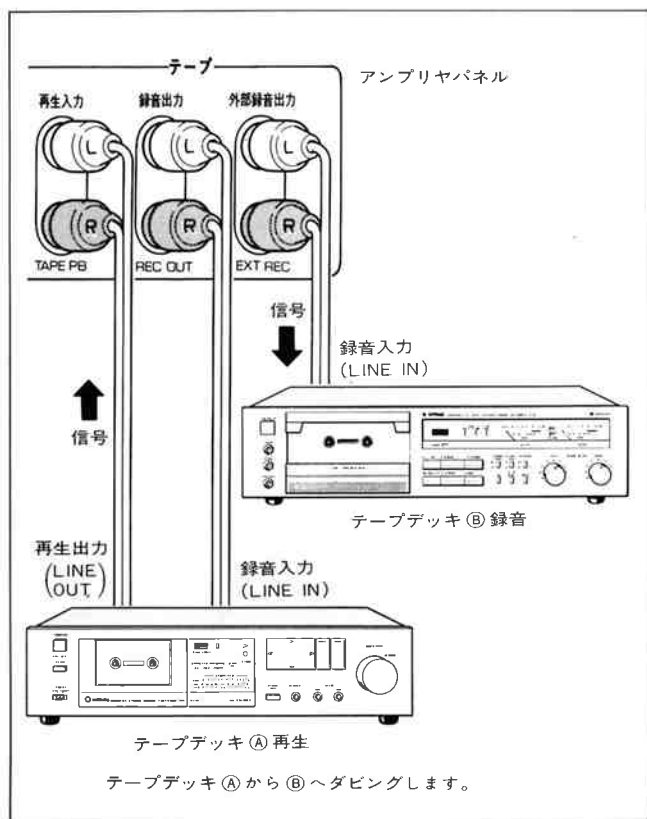


■テープのダビング

本機のテープ入力には1系統だけですが、テープデッキが2台あれば外部録音出力(EXT REC)端子を使ってテープのダビングができます。

1. テープデッキ①を再生入力(TAPE PB)及び録音出力(REC OUT)端子に接続します。(5ページ「テープデッキの接続」参照)
2. テープデッキ②のLINE IN(録音入力)端子とアンプの外部録音出力(EXT REC)端子を接続します。

◆テープデッキ②のLINE OUT(再生出力)端子はアンプの再生入力(TAPE PB)あるいは補助(AUX)端子には接続しないでください。



3. INPUTスイッチの"TAPE"ボタンを押します。



4. テープデッキ①でテープを再生し、テープデッキ②で録音します。

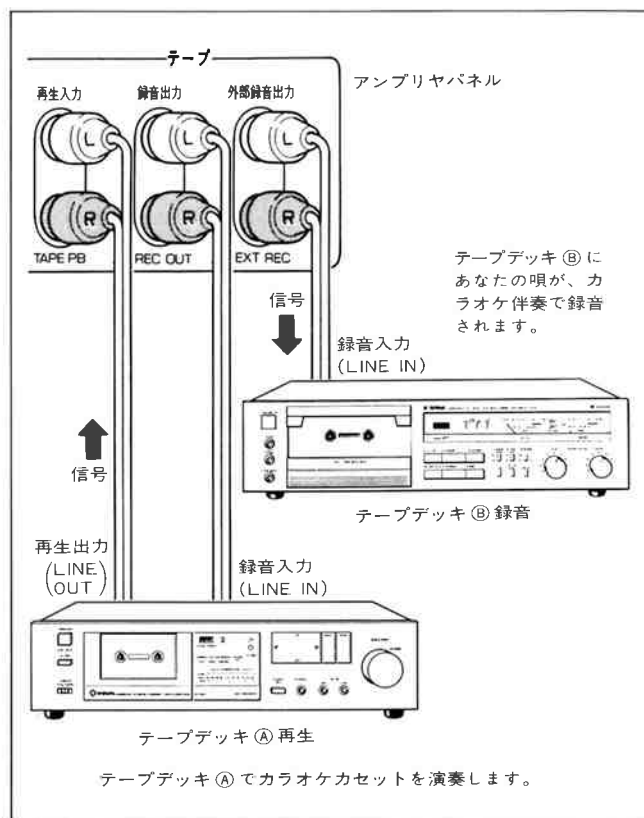
アンプのVOLUMEをあげると、スピーカーからテープデッキ①の再生音が聴けます。

■テープとのマイクミキシング録音

(カラオケカセットとのマイクミキシング録音)

カラオケカセットで唄いながら録音するには、カセットデッキが2台必要です。

1. 接続は「テープのダビング」のときと同じです。

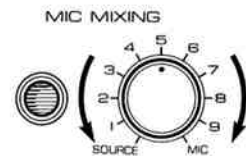


2. テープデッキ②を録音スタンバイ状態にします。

3. INPUTスイッチの"TAPE"ボタンを押し、テープデッキ①でカラオケカセットを再生します。



4. マイクを接続してミキシングバランスを調整します。
5. テープデッキ②の録音をスタートします。

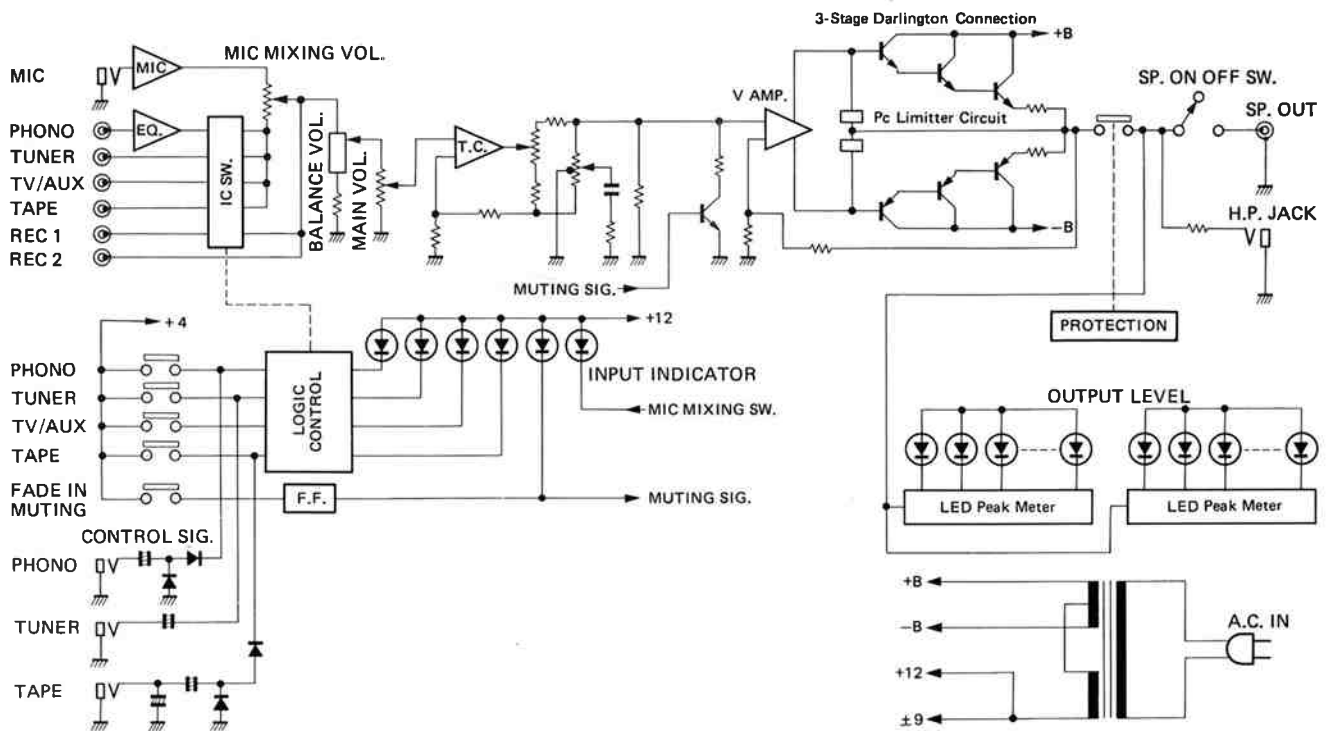


カラオケの音が大きくなる。 マイクの音が大きくなる。

- ◆録音中、BALANCE, BASS, TREBLEの各ツマミを回しても録音には影響ありません。

ブロックダイアグラム・参考仕様

■ブロックダイアグラム



■参考仕様

定格出力	65W + 65W (8Ω T.H.D. 0.02% 20Hz~20kHz) 70W + 70W (8Ω T.H.D. 0.02% 1kHz)
パワーバンド幅	10Hz~50kHz(0.05%, 32.5W/8Ω)
ダンピングファクター	60(1kHz, 8Ω)
入力感度/インピーダンス	
PHONO	2.5mV/47kΩ
AUX、TAPE、TUNER	150mV/38kΩ
MIC	1mV/22kΩ
最大許容入力	
PHONO	80mV(1kHz, 0.05%)
MIC	20mV(1kHz, 5%)
出力電圧/インピーダンス	
REC OUT	150mV/2kΩ
ヘッドホン出力/インピーダンス(0.01%)	0.65V/8Ω 7V/100Ω
周波数特性	
AUX/TAPE/TUNER	+0 -3.0 dB (5Hz~100kHz)
RIAA偏差	
PHONO	±0.5dB
全高調波歪率	
PHONO→REC OUT 1V	0.02%(20Hz~20kHz)
AUX/TAPE/TUNER→SP OUT 30W/8Ω	
	0.02%(20Hz~20kHz)
入力換算雑音(IHF、Aネットワーク)	
PHONO	0.572μV

残留ノイズ(IHF、Aネットワーク)	300μV以下
チャンネルセパレーション	
PHONO	80dB(1kHz、Volume、-30dB 0Ω)
AUX/TAPE	80dB(1kHz、Volume、-30dB 0Ω)
トーンコントロール	
BASS(ターンオーバー周波数 350Hz)	±10dB 20Hz
TREBLE(ターンオーバー周波数 3.5kHz)	±10dB 20kHz
オーディオミュティング	-20dB
混変調歪率	
AUX/TAPE/TUNER	0.02%(65W/8Ω)
SN比(IHF、Aネットワーク、入力ショート)	
PHONO	73dB
AUX/TAPE/TUNER	100dB
MIC	55dB
電源電圧/周波数	AC100V ±10V、50/60Hz
消費電力	150W
ACアウトレット	
スイッチ連動	100W、MAX
スイッチ非連動	200W、MAX
外形寸法(W×H×D)	435×102×333mm
重量	7.3kg

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	上記接続が確実にされAC100Vが出ていてもONしない。	日本楽器のサービスネットワークに相談してください。
INPUTスイッチを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUMEツマミが絞られている。	VOLUMEツマミを右に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	BALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEツマミを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの位相(+, -)が合っていない。	アンプの位相(+, -)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線、又はコントロール信号出力端子がはずれている。	アース線又はコントロール信号出力端子を正しく接続してください。
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する。	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある。	日本楽器のサービスネットワークに相談してください。
		電波を発射している所に相談してください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
マイクを使うと「ピー」という音が出る。	「ハウリング」をおこしている。	VOLUMEをさげ、マイクをスピーカーから離してください。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別はいたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か、右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしなさいですみませう。)

■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちなお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒980	仙台市1番町2丁目6-5 TEL (0222)23-3101
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区栄1-7-33(サカエセンタービル5F) TEL (052)201-1551
浜松営業所・〒432	浜松市東伊藤2丁目14-1 (ヤマハエレクトーン・ステレオサービスセンター) TEL (0534)56-9211
北陸出張所・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国出張所・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
岡山出張所・〒700	岡山市本町6-30(フジビル8F) TEL (0862)32-3802
広島営業所・〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

■日本楽器製造株式会社

本社・工場 〒430	浜松市中沢町10-1 TEL.0534(65)1111
東京支店 〒104	東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL.03(572)3111
銀座店 〒104	東京都中央区銀座7-9-14 TEL.03(572)3131
横浜支店 〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL.045(212)3111
横浜店 〒220	横浜市西区南幸2-15-13 TEL.045(311)1201
千葉支店 〒280	千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL.0472(47)6611
関東支店 〒370	高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL.0273(27)3366
大阪支店 〒542	大阪市南区末吉橋通4-8/心齋橋プラザビル 東館8,9F TEL.06(251)1111
心齋橋店 〒542	大阪市南区心齋橋筋2-39 TEL.06(211)8331
神戸支店 〒651	神戸市中央区浜辺通り6丁目1の36 TEL.078(232)1111
神戸店 〒650	神戸市中央区元町通2-188 TEL.078(321)1191
四国支店 〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL.0878(33)2233
名古屋支店 〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052(201)5141
北陸支店 〒921	金沢市泉本町7-7 TEL.0762(43)6111
九州支店 〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2151
小倉店 〒802	北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL.093(531)4331
北海道支店 〒064	札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL.011(512)6111
仙台支店 〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL.0222(95)6111
広島支店 〒730	広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL.0822(21)4122
浜松支店 〒430	浜松市田町32 TEL.0534(54)4115
浜松店 〒430	浜松市鍛冶町122 TEL.0534(54)4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

